

日時：令和4年6月22日(水) 14:00～16:15

会場：東部浄化センター 1階会議室

議 事

(1) 上下水道局の組織及び今年度の審議スケジュール

○事務局から説明

(2) 水道事業の概要

○事務局から説明

(3) 下水道事業の概要

○事務局から説明

(4) 水道事業の広域化

○事務局から説明

(5) 質疑

○質疑応答・意見

〔委 員〕

4市町での広域化ではなく県営水道をそれぞれの市町に移管または坂城町と千曲市で統合する案についても検討されたことはあるのか。

〔事務局〕

県営水道の資産は利用者の財産なので区切るのは難しい。平成21年度にそれぞれ分割して移管する検討をしたが、水源がない町もあることから合意に至らなかった。

〔事務局〕

資料33ページ、平成21年度に県営水道の四ツ屋浄水場（川中島）を長野市に譲渡してもらう検討をした。しかし、県営水道をそれぞれの市町で分割すると、主要な浄水施設や水源がない千曲市と坂城町は難しいと判断された経緯がある。今回はそれらを踏まえて、水の有効活用を念頭に検討している。

〔委 員〕

上田市から千曲市まで、上田市の2つの浄水場からの水量が足りれば四ツ屋浄水場は長野市で使える。また、人口減少等の状況も平成21年当時と変化していると思うが、再度検討の必要はないのか。

〔事務局〕

量的に分割することは可能かもしれないが、今回は流域全体の水運用と併せて災害への対応も念頭に置いている。浄水場を2系統に分散して確保することは、災害等の危機管理上必要と判断している。

〔会 長〕

長野市だけで決められる話ではなく、ほかの市町がそれぞれ承認しないといけない。御質問のような検討をした場合に千曲市がよいと言ってくれるか、ということもある。50年、100年後を見据えた場合に、高低差があって水を流せるなら一緒に運用したほうがよいということだと思う。料金シミュレーションでは、今千曲市は低い人口減少が速く、どんどん料金が上がっていくようになっている。長野市は既に高いということもあり、そこまで上がらないかもしれないが、流域全体がメリットを享受できる姿を考えていかなくてはならない。

〔委員〕

地域や学生からは「現在は長野市と上田市の水道料金が随分違うため、広域化によって上田市の水道料金が高くなっても合意形成できるのか。上田市から坂城町、千曲市までを広域化して、長野市は独自にやる方がよいのではないか。」という意見が出ていると聞いている。

〔事務局〕

今回の50年シミュレーションでは、すべての地域で料金の上昇を抑制できると推計しているので、広域化でメリットがあることを説明していく。

〔委員〕

説明会では申し上げたような提案が出てくると思うので、現状のまま、統合、長野市だけの3パターンで住民自身が考えられるようにしてもらえればありがたい。

〔事務局〕

上田市の皆様からすると自分たちにメリットがあるかどうか疑問を持たれるかもしれない。そういったことにしっかりと御答えしたい。

〔委員〕

県水を長野市や上田市でそれぞれ分割した場合、四ツ屋浄水場は長野市営になると思うが、四ツ屋浄水場だけで更北、川中島、篠ノ井の水量は賅えるのか。

〔事務局〕

可能だが、標高の高いところからくる上田市の水を利用したほうが効率的で単価も下がる可能性があるので、一番効率のいい方法をこれから検討していく。

〔会長〕

既に一部の水は長野市にきていると考えてよいか。

〔事務局〕

県水は現在も上田市で作られた水が長野市域にきている。

〔委員〕

水道料金は50年後に2倍近くまで上がるということで、ほとんど経済成長しない社会が続くと、年金も下がる一方で、年金生活者は耐えられるのか心配になる。これから少子化が加速していくので、今の体制を半分にするという論理になるのか。それよりも、コンパクトシティで公共施設を維持していく視点で考えてはどうか。

〔事務局〕

上下水道事業は装置産業と言われていて、管を敷いてその管を維持していかなければならない。戸数が減って1軒になっても給水を継続していくのが、私共の義務だと思っている。その中でどうやって維持していくのか、コンパクトシティという形で将来の住み方が変わってくるのであれば、それに合わせて水道事業も変化していくことになる。コンパクトシティ構想が具体的に見通せない中で、水道事業をいかに維持していくのかを考えていく必要がある。各地区の説明会で出た御意見や結果を踏まえながら、委員の皆様にもフィードバックして御審議いただく。